

土木構造物荷重指針連合小委員会 第5回 議事録(案)

日時 : 2003年11月28日(金) 17:00~19:30

場所 : 鹿島建設 KIビル 2階ラウンジ

出席者 : 古田委員長、白木副委員長、本城副委員長、佐藤幹事長、秋山委員、香月委員、勝地委員、川谷委員、北原委員、金委員、澤田委員、塚本委員、長尾委員、中山委員、野津委員、松島委員、村越委員、佐々木幹事、相内オザハ

議事 : 1) 前回議事録確認

2) 発題と討議

・本編の原稿(案)の紹介と討議:

第一案の紹介 : 香月委員

見直し案の紹介 : 白木副委員長、佐藤幹事長

・ISO 他主要基準における作用の記述について : 佐々木幹事

配布資料 : 5-0) 議事次第

5-1) 第4回 議事録(案)

5-2) 本城目次構成案に対する具体的記述部分挿入(たたき台): 香月委員

5-3) " : 白木副委員長

5-4) " : 佐藤幹事長

5-5) ISO 2394 他 主要基準における作用に関する記述の整理 : 佐々木幹事

事務連絡を含む全体について

- ・鋼構造委員会の連絡幹事として加わって頂いた村越委員から自己紹介があった。
- ・11月5日に開催された構造工学委員会本委員会において、佐藤幹事長が荷重指針小委員会の活動状況を報告した。構造工学委員会が荷重指針小委員会に寄せる期待は非常に大きいとのこと。今後、連絡幹事が親委員会へ報告する際には、佐藤幹事長が構造工学委員会向けに作成された報告書を活用して頂く。

主な討議 (発言者、敬称略)

- ・アル骨など特定の材料(ここでは、コンクリート)に対する化学的影響は、本指針が示す作用(あるいは環境的影響)に含めない。材料種類に関係なく定義できるものを原則的に扱う。
- ・【2.2.2 荷重(作用)主因子について】「荷重主因子」の記述に確率分布モデルが与えられるとあるが。(澤田)
- ・原則として確率分布モデルとする。ただし、確率分布モデルを与えることが適切でない場合には、それに縛られるものではないことを付記する。
- ・発生確率付きの地震動群は、荷重主因子に当たるのか。(澤田)
- ・荷重主因子に当たる。ただし、具体的な数値は付録に廻すことになる。
- ・荷重、作用、主因子など、言葉の整理が必要と感じる。(松島)
- ・荷重(作用)因子は、せめて作用(荷重)因子としたらどうか。(澤田)

- ・ 環境的影響を環境作用としたらどうか。(松島)
- ・ 現段階で環境作用とするのは時期尚早との見方もあるので、策定された内容を見て判断する。
- ・ 「５．用語の定義」は、本編の最初の章に移す。

<変動作用、偶発作用について>

- ・ 変動作用と偶発作用の分類は荷重組合せの際に必要である。(本城)
- ・ 本来、確率モデルを定義すべきもの、すなわち発生の規模や頻度が確率的な現象に従うものであっても、データが集積していないために、定義できない場合がある。このようなものは本質的には変動作用だが、現実的には偶発作用として扱わざるを得ない。変動作用とするか偶発作用とするかは、データによって左右される。(澤田)
- ・ 偶発作用への分類は安易に行ってはならない。偶発作用に分類された場合、その作用に対してはもはや合理的に取り扱うことはできないことを意味する。偶発作用はなるべく少ない方がいい。(本城)
- ・ 発生確率がわかったとしても 500 年に 1 回起こるような作用(例えば、地震)は、結果的に扱いが偶発作用と同じになるのではないか。そうであれば、分類の意味が無くなってしまう。(長尾)
- ・ 本議題は、本来幹事会が取り扱うべきものであり、次回の幹事会で継続討議する。ボランティアで作用の定義を作ってくれる方がいたら、歓迎したい。(佐藤)

今後の予定

- ・ 佐藤幹事長が資料 5-2、5-3 を合本したものを作成し、メーリングリストを用いて委員からの意見を募る。
- ・ 次回開催予定

| | | | | |
|-------------|--------|-------------|------|---------|
| ・ 第 2 回幹事会 | 12月19日 | 13:30~16:30 | 鹿島建設 | 2F ラウンジ |
| ・ 第 6 回小委員会 | 1月30日 | 10:00~12:00 | 土木学会 | A 会議室 |

以上